

研究計画説明書

平成 年度 (No. 28 - 2)

(事務局にて記載)

研究課題名	モモ・ブドウの肥大促進技術の確立とブランディングに関する研究																																			
研究期間	平成28年度～30年度	形態	新規	・継続 (年目)																																
研究開発予算	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H28年度：20,030</th> <th>H29年度：4,331</th> <th>H30年度：4,331</th> <th>予算総額：28,692</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旅費：146</td> <td>旅費：164</td> <td>旅費：164</td> <td>旅費：474</td> </tr> <tr> <td>消耗品費：2,734</td> <td>消耗品費：2,700</td> <td>消耗品費：2,700</td> <td>消耗品費：8,134</td> </tr> <tr> <td>委託費：980</td> <td>委託費：765</td> <td>委託費：765</td> <td>委託費：2,510</td> </tr> <tr> <td>使賃：546</td> <td>使賃：546</td> <td>使賃：546</td> <td>使賃：1,638</td> </tr> <tr> <td>賃借費：148</td> <td>賃借費：148</td> <td>賃借費：148</td> <td>賃借費：444</td> </tr> <tr> <td>備品：15,468</td> <td>備品：0</td> <td>備品：0</td> <td>備品：15,468</td> </tr> <tr> <td>負担金：8</td> <td>負担金：8</td> <td>負担金：8</td> <td>負担金：24</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p>				H28年度：20,030	H29年度：4,331	H30年度：4,331	予算総額：28,692	旅費：146	旅費：164	旅費：164	旅費：474	消耗品費：2,734	消耗品費：2,700	消耗品費：2,700	消耗品費：8,134	委託費：980	委託費：765	委託費：765	委託費：2,510	使賃：546	使賃：546	使賃：546	使賃：1,638	賃借費：148	賃借費：148	賃借費：148	賃借費：444	備品：15,468	備品：0	備品：0	備品：15,468	負担金：8	負担金：8	負担金：8	負担金：24
H28年度：20,030	H29年度：4,331	H30年度：4,331	予算総額：28,692																																	
旅費：146	旅費：164	旅費：164	旅費：474																																	
消耗品費：2,734	消耗品費：2,700	消耗品費：2,700	消耗品費：8,134																																	
委託費：980	委託費：765	委託費：765	委託費：2,510																																	
使賃：546	使賃：546	使賃：546	使賃：1,638																																	
賃借費：148	賃借費：148	賃借費：148	賃借費：444																																	
備品：15,468	備品：0	備品：0	備品：15,468																																	
負担金：8	負担金：8	負担金：8	負担金：24																																	
研究担当者	果樹試験場：萩原 栄揮、里吉 友貴、富田 晃、宇土 幸伸、塩谷 諭史 工業技術センター：佐藤 博紀、鈴木 文晃、串田 賢一																																			
外部共同研究者	山梨学院大学：伊東 洋晃、張 華																																			
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> モモ、ブドウの産地間競争は激しく、山梨ブランドの維持・強化を図るため、より魅力ある商材の開発が求められている。 果実は出荷規格内では大玉ほど高値で取引されている。しかし、規格を超える果実は生産が安定せず、一定の販売ルートが確立していないため、大きいという有利性が活かされていない。 そこで本研究では、食味を維持しつつ現状の規格を超えるような大玉なモモ、大粒のブドウを安定して栽培できる技術を確認し、新たな規格の設定を目指す。また、流通において高価格取引を可能とするブランディング方法について検討し、差別化を意識した有利販売を目指す。 																																			
研究の内容	<ol style="list-style-type: none"> モモ・ブドウの肥大促進技術の確立 <ol style="list-style-type: none"> 果実肥大に影響する要因の解明 (果試) <p>モモでは果実肥大と着果部位・葉果比・摘果方法などの関係、ブドウでは果粒数・摘心方法・植物生長調節剤の有効な利用方法等を明らかにすることで肥大促進を図る。また、各々の処理が果実の細胞数や細胞の大きさに及ぼす影響を明らかにし、効率的な肥大促進を図る。</p> 大玉・大粒化栽培技術の確立 (果試) <p>果実肥大に影響する個々の技術を組み合わせることで肥大促進技術を確認する。</p> 大玉・大粒果実のブランディング <ol style="list-style-type: none"> 着色抑制方法とシミュレーションを用いた評価手法の開発 (工技セ・果試) <p>大玉果実の差別化方法の一つとして、果皮に文字や模様を付ける着色抑制手法やデザインを開発するとともに、シミュレーションを用いた評価手法を確認する。</p> 販売パッケージの試作と印象評価 (工技セ) <p>有利販売が可能となる大玉・大粒果実専用の販売パッケージを開発する。</p> ブランディング方法の提案 (山梨学院大) <p>大玉・大粒果実の流通特性や需要特性を明らかにし、ブランディング方法を提案する。</p> 																																			

<p>研究の基礎となるこれまでの研究蓄積</p>	<p>(1) 摘蕾・摘花に重点をおいた早期着果調節によりモモの果実肥大が促進されるとともに、着果調節の作業時間を削減することができる (H23、H26)。</p> <p>(2) モモの果実肥大に及ぼす細胞分裂と細胞肥大の影響については、ステージ別および品種間差についての先行研究が実施されている (山口 2005)。</p> <p>(3) 展葉初期に花穂に低濃度フルメットや窒素肥料を散布するとブドウの果粒肥大が促進される (H23～H26)。</p> <p>(4) 開花始め期に新梢先端3節程度を切除する摘心処理を行うと、ブドウ「シャインマスカット」の果粒肥大が促進される (H24)。</p> <p>(5) ブドウ「シャインマスカット」において満開期に環状はく皮処理を行うと果粒肥大が促進する (H26)。</p> <p>(6) 予備試験でモモの着色抑制について検討し、基盤となる技術を開発した。また、果実品質や障害発生への影響、着色抑制に適した果実部位等を確認した。ブドウについては品種適性等が明らかとなったが、手法改善が必要であることが分かった (H27)。</p>
<p>期待される成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果実の大玉・大粒化栽培技術が確立することで、県産果実の高品質化が図られる。 ・ 話題性があり、魅力的な商材が開発される。 ・ 現行規格を超える果実の有利販売が可能となる。 ・ 山梨県産果実のブランド力が強化される。
<p>共同研究とする理由</p>	<p>肥大促進技術の確立をモモ・ブドウ栽培に関する研究蓄積がある果樹試験場が、着色抑制資材・デザイン・販売パッケージの開発はデザイン研究や資材加工のノウハウを有する工業技術センターが担当することで、効率的な試験研究が遂行できる。</p> <p>また、マーケティングや商品開発に関する研究を専門分野とする山梨学院大学の協力助言を得ることにより、ブランディング方法の検討が可能となり、販売面を含めた包括的な提案を行うことができる。</p>

(各項目とも適宜行数を増やして記載する。但し、全体は2ページ以内)